

# 第9章 開放経済の基礎知識の復習

## 応用マクロ経済学 2



教員：奴田原 健悟

<http://www.kengonutahara.com/teaching>

# 第9章のアウトライン

## 第9章の授業でやること

- ① 開放経済の国民所得
- ② 為替レート

## 教科書との関係

- ▶ 「マンキューマクロ経済学I（入門篇）」（東洋経済新報社）第6章6-1、6-3（p218中ほどまで）  
（第3版は第5章5-1、5-3）

# 1. 開放経済の 国民所得

# 開放経済とは

(open economy) : 輸出入を

明示的に考える

⇔ 閉鎖経済

変数の定義 :

$C =$  (消費)       $I =$  (投資)       $G =$  (政府購入)

$EX =$  ( \_\_\_\_\_ Exports:外国の自国財への支出)

$IM =$  ( \_\_\_\_\_ Imports:自国の外国財への支出)

# 開放経済でのGDPの構成

$NX$  : \_\_\_\_\_ (Net Exports) :

$$NX = EX - IM$$

- ▶  $NX > 0$  : 貿易 \_\_\_\_\_
- ▶  $NX < 0$  : 貿易 \_\_\_\_\_

**GDPの構成** :

$$\underbrace{Y}_{\text{自国の生産}} + \underbrace{IM}_{\text{外国の生産}} = \underbrace{C + I + G}_{\text{自国の支出}} + \underbrace{EX}_{\text{外国の支出}}$$
$$\iff Y = C + I + G + \underbrace{EX - IM}_{\text{純輸出 } NX}$$

# 開放経済での国民所得勘定の恒等式 (1/2)

国民所得勘定の恒等式：

$$Y = C + I + G + NX$$

$$\iff NX = \underbrace{Y}_{\text{所得}} - \underbrace{(C + I + G)}_{\text{国内支出}}$$

$$\iff NX = \underbrace{(Y - C - G)}_{\text{国民貯蓄}} - I$$

$$\iff NX = \underline{\hspace{2cm}}$$

← 貯蓄と投資は

(閉鎖経済では  $NX = 0$  なので、 $S = I$  が成立)

# 開放経済での国民所得勘定の恒等式 (2/2)

(対外純投資) :  $S - I$

---

- ▶  $S - I > 0$  : 自国で余った資金を外国に貸している
- ▶  $S - I < 0$  : 自国で不足する資金を外国から借りている

$NX = S - I$ の式の意味

- ▶ 財・サービスの国際的な流れ (左辺) と資金の国際的な流れ (右辺) は、裏表の関係にある

# 2. 為替レート



# 為替レート (1/3)

為替レート  $e$  (nominal exchange rate) :

二つの国の \_\_\_\_\_ の相対価格

例) 100 円/ドル (1 ドル=100 円)、114 円/ユーロ (1 ユーロ=114 円)

[注] 日本では名目為替レートを \_\_\_\_\_ で  
1 ドル=90 円のように表すため、円高 (円の増価) は  $e$  の  
数字が減少したときで、円安 (円の減価) は  $e$  の数字が  
増加ときになる

例) 1 ドル=120 円から 1 ドル=90 円になると、  
\_\_\_\_\_

# 為替レート (2/3)

為替レート  $\varepsilon$  (real exchange rate) :

二つの国の \_\_\_\_\_ の相対価格

例) アメリカの財 1 単位は、日本の財何単位分か

## 為替レートの変化

- ▶  $\varepsilon \uparrow$  : 実質為替レートの \_\_\_\_\_ (自国財安)
- ▶  $\varepsilon \downarrow$  : 実質為替レートの \_\_\_\_\_ (自国財高)
- ▶  $e \uparrow$  : 名目為替レートの \_\_\_\_\_ (円安)
- ▶  $e \downarrow$  : 名目為替レートの \_\_\_\_\_ (円高)

# 為替レート (3/3)

名目・実質為替レートの関係 : 自国物価  $P$ 、外国物価  $P^*$

$$\begin{aligned}\varepsilon &= \\ &= \frac{\text{(90 円/ドル)} \times \text{(アメリカの財のドル表示)}}{\text{(日本の財の円表示)}} \\ &= \frac{\text{(アメリカの財の円表示)}}{\text{(日本の財の円表示)}}\end{aligned}$$

- ▶ 実質為替レート  $\varepsilon$  が高いときは、相対的に外国財が \_\_\_\_\_、自国財は \_\_\_\_\_

# 純輸出と為替レートの関係

実質為替レート  $\varepsilon \uparrow$

⇒ 輸出  $EX$  \_\_\_\_\_ & 輸入  $IM$  \_\_\_\_\_

⇒ 純輸出  $NX$  \_\_\_\_\_

純輸出関数 : 実質為替レート  $\varepsilon \uparrow \Rightarrow NX$  \_\_\_\_\_

$$\underbrace{NX}_{\text{純輸出}} = \underbrace{NX(\varepsilon)}_{\text{純輸出関数}}$$

# 純輸出と為替レートの関係 (2/2)

